

瀬戸プラネットの取組について

1. 瀬戸プラネットの概要

瀬戸内海プラスチックごみ対策ネットワーク（瀬戸プラネット）

「瀬戸内海プラスチックごみ対策ネットワーク」（令和5年10月発足）では、瀬戸内海地域全体で効果的・効率的にプラスチックごみ対策に取り組むため、**関係14府県と環境省**が、①取組や課題の共有、②実態把握、③行動を連携して行い、**追加的なプラスチック汚染ゼロ**、ひいては**きれいで豊かな瀬戸内海の実現**を目指していく。

構成メンバー

滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、福岡県、大分県、環境省（本省・地方事務所）

ビジョン

きれいで豊かな瀬戸内海と共生し、その恵みを未来へ共有・継承する。

目標

プラスチック汚染については、**2050年に追加的な汚染をゼロにすることを目標としつつ、前倒しで2040年までにゼロにする野心**をもって、取組を進める。



瀬戸内海プラスチック
ごみ対策ネットワーク
Seto Inland Sea Network
for Plastic Waste Control



取組方針

①取組・課題の共有

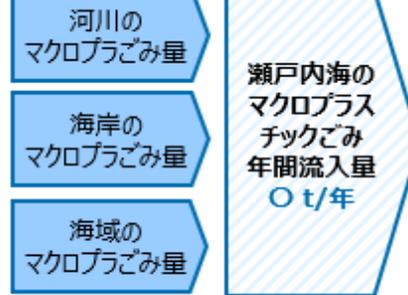
各府県の取組の情報共有、企業や団体等との意見交換



令和5年10月26日キックオフミーティング@広島

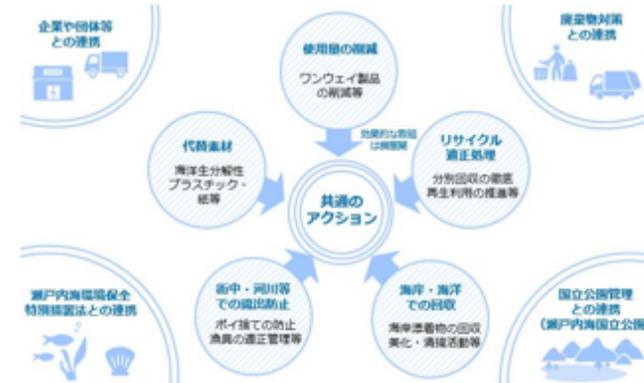
②実態の把握

瀬戸内海へのマクロプラスチックごみの流入量やホットスポット等の把握



③目標への行動

海洋流出までの各段階でのアクションを今後検討・具体化



R 6

2. 瀬戸プラネットのスケジュール

	2023年度	2024年度	2025年度以降
国内外の動き	条約交渉(2024年末にとりまとめ予定) 海ごみゼロウィーク	国際条約 海ごみゼロウィーク	プラ条約を受けた日本の対応検討 海ごみゼロウィーク 大阪・関西万博
流出量推計	調査方針・推計手法の検討	〈流入量実態調査マニュアルを活用〉 瀬戸内海へのマクロプラスチックごみ流入量調査 (海ごみ補助金にて支援) 環境省ツールも活用し、推計手法を構築	継続的な調査・推計 二次推計
①河川調査・推計			一次推計結果算出 2年程度を目途に推計を実施し、効果を検証 対策の効果検証・目標進捗確認
②海岸海域調査・推計	[既存]漂着ごみ組成調査(海ごみ補助金にて支援) 調査方針・推計手法の検討	環境省ツールも活用し、推計手法を構築 《新規》漂着ごみのホットスポット等の調査(海ごみ補助金にて支援)	
重点アクション	広域・企業等連携による発生抑制対策としての重点アクションの検討	広域・企業等連携による発生抑制対策としての重点アクション実施	重点アクションのバージョンアップ・取組拡大 新規調査結果を踏まえた重点アクションの検討・実施
その他	ビジョン・目標の検討		マイルストーンの検討
	連絡調整会議での取組の共有・議論(3ヶ月に1回程度を想定)		
	プラスチックスマートWEBサイト・シンポジウム等で取組の発信		

実態把握

【モデル的アクション】
大阪府と広島県で
モデル的な取組を実施中

2. 瀬戸プラネットのモデル的アクション（R6）



瀬戸内海プラごみ対策ネットワークの重点アクション事業

資料3-1

テイクアウト飲料用カップ等の散乱防止モデル事業（大阪府申請事業）

目的

- 大阪湾の浮遊ごみの約9割がペットボトルや容器類等の生活系のプラスチックごみである。
- テイクアウト用の食品・飲料容器は、適切でない捨て方によって、街中に散乱したのち、河川を通じて海に流出し、海に住む生き物を傷つけたり、景観を悪化させる原因となっている。
- また、コンビニやカフェ等において、コーヒー等の飲料テイクアウトが盛んになっているものの、**カップの処分方法の案内が不十分**であり、特に、外国人には全く周知されていないものと考えられ、大阪・関西万博の開催などによるインバウンドを含めた観光客の増加に伴い、**自販機横のリサイクルボックスへの誤投入や周囲への置き捨てなど、街のごみ散乱の要因になる恐れ**がある。
- そこで、環境中に流出するプラスチックごみ削減を目的として、以下の実証事業を行い、それぞれの効果を検証する。

(参考)大阪府内河川での浮遊ごみ回収物
組成調査結果(R6年度)

飲料・食品の容器包装プラスチック 上位3分類

種類	容積割合(%)
飲料用ペットボトル本体	62
弁当箱(コンビニ弁当等)	29
コップ型容器・アルミパウチ容器・菓子袋・カップ類等の食品容器包装	9



▲ペットボトル



▲飲料カップ

実証事業の概要

飲食店、オフィスが集まる複合施設である**アジア太平洋トレードセンター(ATC)**と連携し、以下の実証を実施。

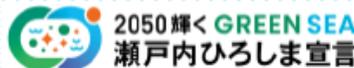
実証1:協力店舗と連携し、エリア来場者に対し、事前に特典を付与する働きかけを行うテイクアウト飲料カップの回収実験を行う。

実証2:エリア内において、多言語(日本語、英語)で、リサイクルボックスへの異物混入(飲み残しを含む)の防止を啓発ポスターを掲示し、効果検証を行う。

実証3:エリア事業者と連携し、バックヤードで従業員に対し食品容器等のプラスチック回収への啓発を行う。

2. 瀬戸プラネットのモデル的アクション (R6)

瀬戸プラネット重点アクション (広島県申請案件)



【アクション③】 ペットボトルの新機能リサイクルボックスの新たな形での導入

- 本アクションは、(新機能リサイクルボックスの導入が遅くなると考えられる) **景観配慮が必要な地域**や離島等でのモデル的な導入&PRや、ナッジによる散乱防止効果を更に高める形でのモデル的な導入などを行うもの。

実施概要

- これまで広島市内を中心に新機能RBの実証実験を実施し、散乱防止効果等を確認してきたが、**今後は、観光地や景観配慮区域等の他地域にもその効果を拡大させていくため、全国清涼飲料連合会と連携し、新機能RBと既存RBとの比較による散乱防止・ポイ捨て抑制効果の検証等を行う。**(※11月~12月頃実証予定)



	テーマ	取組	検証内容
①	新機能RBの散乱防止効果の面的拡大	観光地や街並み保存地区付近の 周囲の景観への配慮が必要な地域 において、新機能RBをカッピングシール等で 周囲の景観と調和した状態 にした上で、 設置 。	<ul style="list-style-type: none"> ✓加工された新機能RBを設置した場合においても、散乱防止効果等が確認されるか検証 →設置に制限がかかる(と思われる)地域での新機能RBの設置及び効果を確認する。
②	新機能RBでの適切な分別回収	新機能RBでの 適切な分別回収の促進 に向けて、次の内容をナッジ等を活用したイラストやPOPで掲出し、誘導する。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 新機能RBの使い方や回収対象物 ○ 回収対象外の適切な処理方法(持ち帰り、周辺の捨ててもよいごみ箱への誘導等) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓従来(既存)RB→新機能RB(デザイン付)ごとに回収物の異物混入率や分別状況を検証 →分別回収の促進に、より効果的な啓発方法等の示唆を得る。

